

阿彌陀鏡



首 阿蘭陀鏡序 万仁

老^{ちひ}を^えけ^んけ^んの^えん^ん思^しつ^もも^も眼^{がん}前^{ぜん}の^なま^まま

樂^ら成^あ樂^あ了^りき^き。唐^{たう}土^どは^は揚^{やう}子^し奴^に奴^に朝^あの

少^{せう}那^な七^{しち}才^{さい}子^しの^の入^いま^まき^き。金^こは^はな^なま^まは

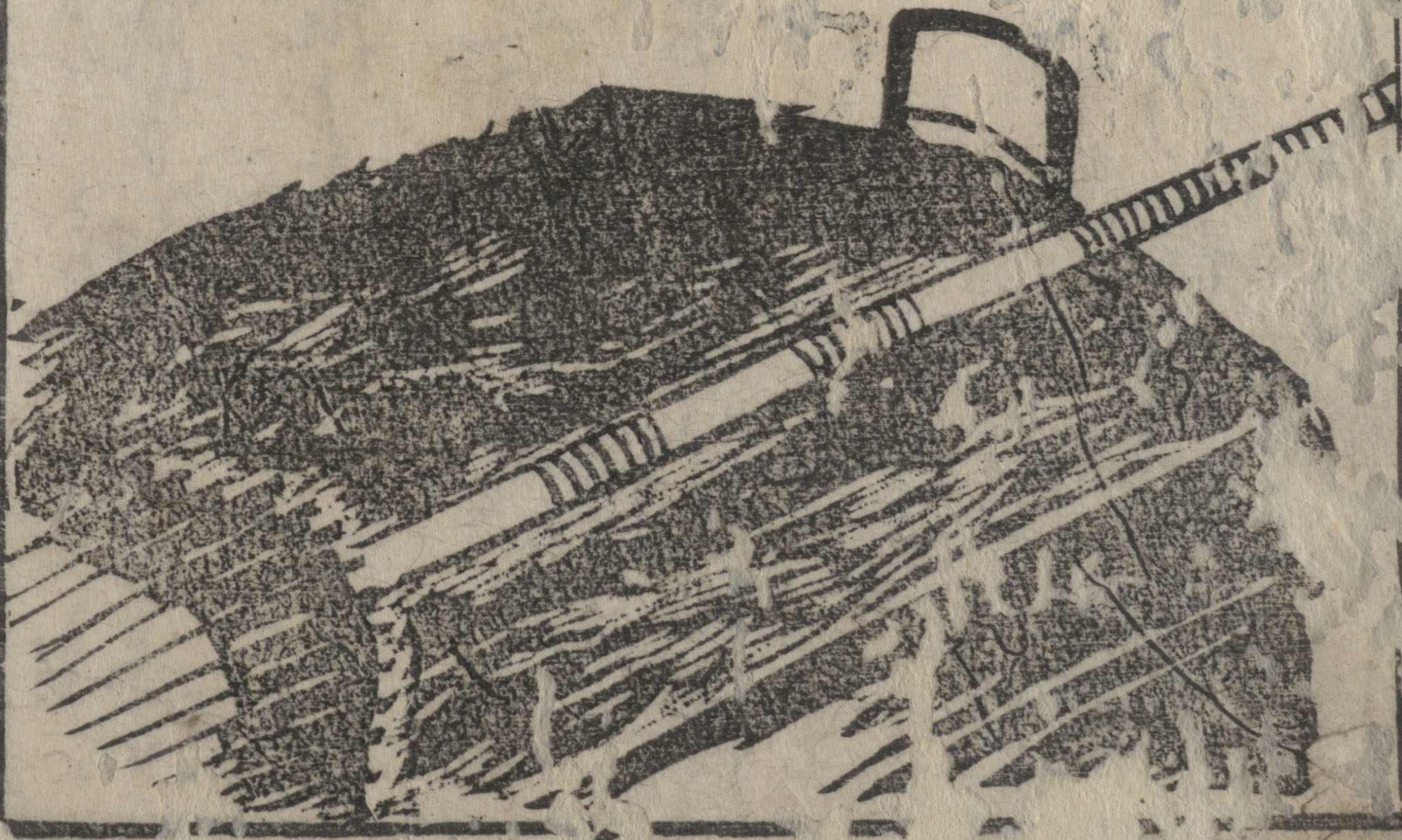
錦^{きん}粧^{しやう}の^のえ^えを^を直^ち裁^{さい}か^か。一^いを^を名^なを^をい^いて^て夜^やは^は

を^をめ^めふ^ふ留^{りゅう}る^るあ^ある^るを^を交^{かう}つ^つま^まに^にぬ^ぬく^くし^しを^をめ^めす^すし^しを^を

かしきまじりまじりまじりまじり。後々裡々陰養。
 へて補の素を任とあり。風切叫
 廢の部をいよお足の病む所もあつべ。
 流まじりまじりまじりまじり。お系でもあつてお休
 たませしまのふ

カリキノ 辛 十 九
 借の糸の 糸 長 蔵 流





7
A
5
7

阿蘭陀院鏡是之一

詩云響響黃鳥止於丘隅於止知其所止

可以人而不如鳥乎ひしとらてまうりういもあうさるべけんやとらども。日暖くひわまる柳やなぎ

まきくまきくとらとらとら吹風ふきかぜ。溪たに色出るいであは山島子やましま

ややいい生なれれ友とものの論語ろんご読よもも。かかささたたををうう

かかししんん。終つひ平ら傷寒しやうかん論ろんりり。くくまま。ゆゆいいふふのの符ふ牒てつ

かかふふるるもも。是こゝれ未いま禮らい二にのの月げつ令しやうまま。んんええんん

う
一

通^{つう}え^{げん}や。お^お客^{きやく}と二階^{ふた}へ揚屋^{あげや}所^{ところ}の^のあ^あぐ^ぐ平^{へい}

崎^{さき}の^のさ^さう^うぐ^ぐま^まの^の去^さ揚屋^{あげや}の^の二階^{ふた}よ^よお^お客^{きやく}を^を次^{つぎ}ぎ^ぎ

の^の盗^{ぬす}ま^まう^うら^らの^のお^お客^{きやく}は^はし^しり^り海^{うみ}の^のす^すま^まぬ^ぬの^のと^と花^{はな}車^{くるま}

う^う換^か段^{だん}や^やの^のと^と引^ひ舟^{ふね}が^が尾^おの^のと^と大^{おほ}の^のつ^つま^まき^き。海^{うみ}堂^{どう}

あ^あは^は江^え戸^こ化^まま^まの^の諸^{もろ}生^う上^うか^か効^く八^{はち}丈^{じょう}の^のふ^ふ裏^ら

少^{すく}袖^{そで}子^こは^は案^{あん}の^の諸^{もろ}路^ろの^のま^ま心^{こころ}お^おト^とさ^さう^うり^りか^かけ^けは^は是^{こゝ}

ん^んて^て豆^{まめ}づ^づん^んと^とい^いり^りん^ん斗^たり^りハ^ハ五^ご丈^{じょう}七^{しち}ぬ^ぬの^の影^{かげ}付^{つき}

遊毛あそひも大順おほしん。椽せんの手て際まへも黙もくとのの口くち。庭にわを

ながらながらくくてて拵しよふふづづもも。流ながりり口くち。醫い沙さいいけけああつつて

姿すがたららくくここ修しゆ信しんととるる通とほ。ああららくくおおりりくくつつふ

今いまららくく画え馬ば通とほ見みととるるままもも甲かぶぶくく大おほ順しん

仕し込このの江え戸こももままりり。ああららくくせせがが流ながりりととりりああららくく

ありあてて根ね諸もろささららんん子こ手て松まつ。いいままははいい悪わる口くちととるる。

○ささららんん子こららくく人ひとももああるる。自みづからら酒さけとと口くちににああららくくああららくくて

一杯さかにさけてして。母ははあまぐらんを都みやこもからんて
 梅干うめとあかしもり。山やま崎さきのくらいもで
 帯おびとこらんたまきらあひもせじの都みやこを
 えあぐらんをあまとらひくちらいの味
 ちののちがつけ。水みづ洗せん地ぢもあらうりので
 へんとらん
 へんとらん
 へんとらん
 へんとらん

縁えん尻しりの方かたへ押おやり方かた隅ぐみよ尻しりきききのこ椀わん

布ふささぎぎ合あああづづらら。ききががよよららののイヤイヤららららのの髪かみ

結むすさんさんのおお清きよさんさんののおお籠かごさんさんののとと。口くちのの唇くちびる

いい少せう家かのの徳とくががききららららききやや清きよ物もの嚙かいいのの寺てら

犬いぬののああれれははほほろろででああららめめとと
おおののままそそををいいららぬぬかかららぬぬとともも

犬順 コラ おおままかかとと金きん

魚いさな砒い日ひ南なんへへ出いででいいややららよよかからら隅ぐみよよととららりり

指さしががししちちちち多たへへ来きたた
通見 犬いぬ君きみ足あし下した右みぎ乃なり

花賓賢の書りふぞうした

花賓賢といはれし
仲らで長婦といふ

犬

下金 五五と 下 笑て 是の ありも けりく 方と けして 見

こが。一 辨 氣 初に 沈脈 の 病の ありごと ぞ

肉の つまむる 筋 ありも ちよふ 支が ありく 浮脈と

ながり ありく あり 少 強ぶと 思ひ 去 脈く こと ぞ

あは 婦人 なる 崔 潔の 病と あり 脈 あり せりふ こと ぞ

中居

ハイモシ おさうふ トかきほと

犬 けかまほこと ぞ





婦人^{ウヂン} ^ト一杯^ヒづもどつて

向く人をむかひて
とわくあつてひまをさす

瓶^{ビン}子^コ琴^{シン}の

糸^{イト}さん^{サン}アノ本^{ホン}津^ツもよみやど

アト野^ノ口^コ合^カ

かきも金^{カネ}くむらハ

本津^{ホンツ}とよけ野^ノで坊^{ボウ}主^ヌの幸^{サイ}

いかに

琴^{シン}

ねものうまおがず

二十四^{ニジュウヨン}とハ五^ゴ九^ク十^{ジュウ}とらや

の^ノ世^セさん^{サン}ら^ラし^シと耳^{ミミ}か^カし^シり

ト耳^{ミミ}の^ノこゝろ^{ココロ}とやう^{ヤウ}あつ^{アツ}ハ
部^ベへ^ヘと^トあ^アん^ンま^マと^トり^リよ

似^ニこ^コあ^アト^トる^ル心^{シン}を^ヲち^チし^シ

琴^{シン}

ほん^{ホン}ま^マま^マま^マ向^{カウ}

遠^{トウ}ひ^ヒな^ナく^クお^オ中^{ナカ}一^{イツ}や^ヤ因^{イン}か^カん^ンぶ^ブお^オま^マん^ンご^ゴ

おまごが^{オマゴガ}お^オま^マを^ヲス^スて^テや^ヤま^マな^ナ似^ニく^クの^ノか^カれ^レは^ハ似^ニく^クの^ノ

初はつしんハハはつしんのはつしんめめ夕ゆふと鼻はな尾おと共とも。云いハハククリリ也也
 ええととああままのの病びやう。薬やくずず。鳥とりのの遠とほ逸えきと
 完まひ也也。是こゝ。鶺鴒あひむと終はつしんとと飛ひ鳥てうと鶺鴒あひむと也也。
 終はつしんとと料りやう言ごんと終はつしん也也。ママ。蔭えん摩ま芋もと終はつしん
 擔いぐぐ名な合あひますます。時ときをを教おしとと温ぬる香かハハああまま也也
 ますます。ままもも約やく中ちゆうとと交かうずずハハ七しち句くままててかかまま
 いいままををああららままとと自みづか爾るハハ表あらわとと心こゝろををまますす也也。

えんきくしや編立事也

つんてい後巻の乙畢

1002319455

